

平成 21 年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	専・大連携による歯科衛生士教育個性化プログラムの開発											
法人名	学校法人 本山学園											
学校名	インターナショナル岡山歯科衛生専門学校											
代表者	室山 哲雄	担当者 連絡先	永井 教之									
1. 事業の概要												
<p>平成 22 年より歯科衛生士専門学校は 3 年制へ完全に移行するが、それに従い教員志望の歯科衛生士のための新しいプログラムが必要となってきた。</p> <p>我々は歯科衛生士専門学校教員・大学歯学部教員・歯科衛生士会会長・フリーランス歯科衛生士等による実施委員会・分科会を設置し、離職歯科衛生士および教員志望の就業歯科衛生士の教育力（基礎知識・技術および先端歯科医療技術力）を向上させるため、次の事業を行った。</p> <p>(1) 歯科衛生士再研修スキルアッププログラム：基礎および臨床科目の講義・演習と教材の開発</p> <p>(2) 模擬チーム歯科医療演習のモデルプログラムの立案と試行（実施要綱の作成）</p> <p>(3) 上記プログラムの検証講座の開催、受講者へのアンケートの実施</p> <p>(4) 歯科衛生士教育実態調査と解析</p> <p>上記プログラムの概要を作成するとともに、実態調査アンケートの結果は各専門学校・関連施設等へ配布した。開発したプログラムについて、全国 150 の歯科衛生士専門学校が利用できるように NPO 法人による全国ネット構築を行った。</p>												
2. 事業の実施に関する項目												
①開発したプログラム・教材・教育手法等の概要												
<p>(1) 歯科衛生士再研修スキルアッププログラム：基礎および臨床科目の講義・演習と教材の開発</p> <p style="padding-left: 20px;">（演習についてはチュートリアル教育法で実施）※教育法実証講座実施分科会が担当</p> <p>下記の今日的なテーマについて、講義と演習を有機的に組み合わせ、毎週木曜に検証講座「歯科衛生士再研修スキルアッププログラム」を行った。</p> <p style="padding-left: 20px;">（受講者：離職歯科衛生士 9 名・就業歯科衛生士 21 名）</p> <p>[講義テーマ]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">・ 活性酸素と老化</td> <td style="width: 33%;">・ 医療倫理学</td> <td style="width: 33%;">・ 摂食嚥下機能学</td> </tr> <tr> <td>・ 障害者歯科学</td> <td>・ 予防歯科学</td> <td>・ 接着基礎</td> </tr> <tr> <td>・ 骨再生の科学</td> <td>・ インプラントの臨床</td> <td>・ 口腔癌と医科連携</td> </tr> </table>				・ 活性酸素と老化	・ 医療倫理学	・ 摂食嚥下機能学	・ 障害者歯科学	・ 予防歯科学	・ 接着基礎	・ 骨再生の科学	・ インプラントの臨床	・ 口腔癌と医科連携
・ 活性酸素と老化	・ 医療倫理学	・ 摂食嚥下機能学										
・ 障害者歯科学	・ 予防歯科学	・ 接着基礎										
・ 骨再生の科学	・ インプラントの臨床	・ 口腔癌と医科連携										

- ・ 歯科放射線学
- ・ 医療安全
- ・ 隣接医学（高血圧・糖尿病）
- ・ 法歯科学
- ・ 接着歯学
- ・ 顎関節症
- ・ 歯科医療マネジメント
- ・ ホワイトニングの基礎
- ・ 歯科矯正学
- ・ 在宅医療
- ・ 救命処置
- ・ スケーリング
- ・ 義歯の科学
- ・ 小児歯科学
- ・ 口腔病理学

[演習テーマ]（チュートリアル教育法によるグループ別演習）

- ・ レセプトオンライン対応科目（IT 情報処理・Word 演習・HP 作成）
- ・ 歯科衛生士のための病理標本観察演習（う蝕症・歯周炎）
- ・ 歯科衛生士教育法（コミュニケーション・スケーリング・口腔内写真撮影）
- ・ ホワイトニング，インプラント技術

（2）模擬チーム歯科医療演習（モデルプログラムの作成と実施）

※新規プログラム開発分科会が担当

Dr 役（岡山大学大学院生 18 名）・指導歯科衛生士役（受講者）・歯科衛生士役（学生）・患者役（高校生 30 名）でチームを組み、チェアサイドデンタルテクニク・印象採取を実施した。

（3）学士「口腔保健学」取得プログラムの開発 ※新規プログラム開発分科会が担当

独立行政法人「大学学位評価学位授与機構」が平成 21 年より設定した学位「口腔保健学」は、歯科衛生士にとってさらなる学問・科学を身につける機会となった。我々は、NPO 法人「口腔健康科学ネット」と共同で、歯科衛生士学位取得のためのプログラムを開発した。そして全国の歯科衛生士に情報を発信して、さらなる学歴に興味のある衛生士の向上心を拾い上げるようにした。全国 150 の専門学校及び歯科衛生士へのアンケート調査でも、90%が興味があるとの回答であった。

②ニーズ調査等（手法・期間・効果）

現在（H21～22 年度 2 年制から 3 年制への移行期）の歯科衛生士教育内容とその将来像を各科歯科医院等へアンケートをとることとした。

平成 21 年 9 月から調査項目の検討をはじめ、11～12 月に実施した。

現状の歯科衛生士の能力および教育上の問題点について、回収されたアンケートから、50 名の歯科医師・100 名の歯科衛生士および全国 150 の歯科衛生士専門学校の教員の意向および意見をまとめ、冊子とした。

現行法に定められた歯科衛生士の業務範囲・歯科衛生士教員資格についての設問では、業務拡大・在宅医療への参加等、法改正の必要があるという回答で一致していた。また、歯科衛生士教育、とくに在宅医療教育の充実が必要であることで一致した。（冊子参照）

※教材開発、実態調査分科会が担当

③実証講座の状況

実証講座は、歯科衛生士 30 名（離職中 9 名・就業中 21 名）が登録し受講した。

	実証講座(講義)		実証講座(演習)	
	1限	2限	3限	4限
	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10
①9月17日(木)			開講式 オリエンテーション (永井 小坂田、合掌、大原、久保田、松田)	学士取得プログラム概要 (永井)
②9月24日(木)	活性酸素と老化 (森)	医療倫理学 (竹島)	IT情報処理の基礎 (竹中、松田)	IT情報処理の基礎 (竹中、松田)
③10月1日(木)	摂食・嚥下機能学 (石田)	摂食・嚥下機能学 (石田)	IT情報処理の基礎 (竹中、松田)	IT情報処理の基礎 (竹中、松田)
④10月8日(木)	障害者歯科学 (江草)	障害者歯科学 (江草)	Word演習 (竹中、松田)	在宅医療 高齢者歯科学 (松尾)
⑤10月15日(木)	予防歯科学 (森田)	予防歯科学 (森田)	Word演習 (竹中、松田)	Word演習 (竹中、松田)
⑥10月22日(木)	接着基礎 (鈴木)	骨再生の科学 (辻極)	HP演習 (河原、松田)	HP演習 (河原、松田)
⑦10月29日(木)	インプラントの臨床 (高木)	口腔癌の医科連携 (水川)	HP演習 (河原、松田)	HP演習 (河原、松田)
⑧11月5日(木)	歯科放射線学 (浅海)	歯科放射線学 (浅海)	病理標本演習 (う蝕症) (長塚、玉村、片瀬、松田)	病理標本演習 (う蝕症) (長塚、玉村、片瀬、松田)
⑨11月12日(木)	顎関節症 (松香)	顎関節症 (松香)	病理標本演習 (歯周病) (長塚、玉村、片瀬、松田)	病理標本演習 (歯周病) (長塚、玉村、片瀬、松田)
⑩11月19日(木)	救命処置と医療安全 (宮脇)	救命処置と医療安全 (宮脇)	コミュニケーション 特論(大原、久保田、松田)	コミュニケーション 特論(大原、久保田、松田)
⑪11月26日(木)	歯科医療 マネージメント (小原)	歯科医療 マネージメント (小原)	コミュニケーション 特論(大原、久保田、松田)	コミュニケーション 特論(大原、久保田、松田)
⑫12月3日(木)	スケーリングの基礎 (加藤)	スケーリングの基礎 (加藤)	スケーリング演習 (加藤、小坂田)	スケーリング演習 (加藤、小坂田)
⑬12月10日(木)	隣接医学(1) 循環器疾患 (高橋)	隣接医学(2) 糖尿病 (高橋)	口腔内写真撮影の演習 (大原、小坂田)	口腔内写真撮影の演習 (大原、小坂田)
⑭12月17日(木)	ホワイトニングの 基礎(寒河江)	ホワイトニングの 基礎(寒河江)	ホワイトニング演習 (合掌、小坂田、松田)	ホワイトニング演習 (合掌、小坂田、松田)
⑮1月14日(木)	義歯の科学 (白井)	インプラント演習 (金田、石田)	インプラント演習 (金田、石田)	インプラント演習 (金田、石田)
⑯1月21日(木)	歯科矯正学 (上岡)	小児歯科学 (松村)	接着臨床 (鳥井)	インプラント演習 (金田、石田)
⑰1月28日(木)	模擬歯科補助者FD (大原、小坂田、松田)	模擬歯科補助者FD (大原、小坂田、松田)	専門学校・大学共同演習 (大原、小坂田、松田)	専門学校・大学共同演習 (大原、小坂田、松田)
⑱2月4日(木)			評価・修了式・成果報告会 (永井 他)	

[講師一覧] (講義・演習)

氏 名	現 職
森 昭胤	岡山大学名誉教授
竹島 尚仁	元群馬高等専門学校 准教授
石田 瞭	東京歯大 講師
江草 正彦	岡山大学病院 准教授
松尾 敬子	岡山県歯科衛生士会 会長
森田 学	岡山大学大学院 教授
鈴木 一臣	岡山大学大学院 教授
長塚 仁	岡山大学大学院 教授
辻極 秀次	岡山大学 助教
高木 慎	岡山大学大学院 准教授
河原 研二	岡山大学大学院 准教授
浅海 淳一	岡山大学大学院 教授
松香 芳三	岡山大学大学院 准教授
宮脇 卓也	岡山大学大学院 教授
小原 啓子	デンタルタイアップ 代表, 歯科衛生士
加藤 久子	フリーランス歯科衛生士
高橋 利近	順正短期大学教授 (副学長)
寒河江 登志朗	日本大学松戸歯学部 准教授
白井 肇	岡山大学歯学部卒後研修センター講師
上岡 寛	岡山大学大学院医歯薬学研究所准教授
松村 誠士	岡山大学大学院医歯薬学研究所准教授
鳥井 康弘	岡山大学卒後臨床研修センター 教授
大原 淳子	フリーランス歯科衛生士
合掌 かおり	元 大垣短期大学講師・歯科衛生士
竹中 宣充	学校法人本山学園理学療法学科 講師
石田 展久	岡山大学病院 医員
金田 祥弘	岡山大学病院 医員

玄 松玉	岡山大学歯学部 大学院生
カジイ アニスル ラハマン	岡山大学歯学部 大学院生
丸山 貴之	岡山大学歯学部 大学院生
帆波 辰基	岡山大学歯学部 大学院生
江藤 司	岡山大学歯学部 大学院生
渡辺 佳衣	岡山大学歯学部 大学院生
黒井 隆太	岡山大学歯学部 大学院生
笈田 育尚	岡山大学歯学部 大学院生
入江 浩一郎	岡山大学歯学部 大学院生
川上 滋央	岡山大学歯学部 大学院生
坂本 隼一	岡山大学歯学部 大学院生
小野 裕子	岡山大学歯学部 大学院生
前田 直人	岡山大学歯学部 大学院生
芦田 昌和	岡山大学歯学部 大学院生
喜多 憲一郎	岡山大学歯学部 大学院生
三野 卓哉	岡山大学歯学部 大学院生
星島 光博	岡山大学歯学部 大学院生

④その他

[教材開発] ※教材開発、実態調査分科会が担当

(1) 歯科衛生士教員研修用ノート開発

歯科衛生士教育でのチュートリアルに用いることのできる、国家試験問題集自習ノートを作成した。教員・学生の国家試験レベルの学力確認を行うことや、学生指導用に用いることができる。

(2) 教員のFD用教材開発（基礎科目）

教員のFD用教材として歯学部教育レベルの教材が必要である。

まず最初に、基礎歯学（（例）口腔病理病態学ノート）を開発した。

(3) 教員のFD用教材開発（先端歯科医療）

現在の歯科医療に必要な先端医療として歯科インプラント・ホワイトニングがある。その基礎と臨床についての概要を学ぶための教材を開発した。これを用いて教員の教育力能力向上を計る。

3. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

(1) 歯科衛生士再研修スキルアッププログラム（冊子参照）

口腔ケアの知識・技術は日進月歩であり、各科目のシラバスはその時代に合致したものなければならない。離職衛生士の就業訓練・就業衛生士のスキルアップおよび専門学校教員の教育力向上のため、基礎科目と臨床科目で大学教員等による合計15回の講義・演習（実習）プログラムを企画した。実証講座全体で各日30人の歯科衛生士（離職9名・就業21名）が受講した。

受講者の資格については、当初大部分を離職・育児中の在宅歯科衛生士としたが、県下1000人の離職歯科衛生士への情報網が短期間では形成できず、多くが就業歯科衛生士となった。今後の課題として、離職歯科衛生士の情報ネットを構築することが必要である。

検証講座の科目および講師については、ほぼ予定通りであった。若干の講師変更、科目等の追加があった。当学校から近い（徒歩で5分ほど）岡山大学教員の全面的協力が得られた。

(2) 模擬チーム歯科医療演習プログラムの開発（冊子参照）

実証講座では、動機付け科目・チュートリアル科目としての模擬チーム歯科医療演習（冊子）を、印象採得をテーマとして1日実施した。計画では、歯科医師役として岡山大学歯学部新生を予定していたが学生のカリキュラムの関係上不可能となった。そのため、次のように変更した。

岡山大学大学院医歯薬総合研究科大学院生（歯科医師・留学生を含む）18名をDr役、講師として公募した。受講者（歯科衛生士）は、指導歯科衛生士として新人歯科衛生士役を担当する専門学校学生を指導する立場とした。患者役は専門学校入学予定者（高校生）30名が担当して実施した。当初計画より充実した内容となった。このチーム模擬演習では、三者（歯科医師役・指導歯科衛生士・新人歯科衛生士）の協力体制を敷くことで効率的な臨床演習を行うことができた。また、受講者（歯科衛生士）を指導的立場に置くことから、歯科衛生業務の指導者としての能力を向上させるFDのプログラムとしても利用できる。今後の展開として、このプログラムを基にした、歯科医師のOSCEに相当する歯科衛生士の前臨床実習、OSCEのシラバス作成・実施を次年度に申請することとした。

(3) 学士「口腔保健学」取得プログラムの開発（冊子参照）

学士口腔保健学取得プログラムは冊子を作成した。今回の受講者および全国の歯科衛生士を対象としたアンケート調査では、歯科衛生士の学歴の向上・学士取得については賛否あったが、少なくとも教育リーダーの育成および将来の教員資格の条件として、学歴の向上は検討すべき項目と考えられた。

(4) ニーズ調査（冊子）

[歯科衛生士教育に関するアンケート調査結果の解析と考察]

全国の歯科医師（歯科医院院長）・大学教員・専門学校150校の教員を対象として歯科衛生士教育に関するアンケートを行い、解析した。

回答数200人の内訳は、歯科医師（歯科医院院長等）25%・大学教員7%・専門

学校教員 24%・歯科衛生士 40%・その他 4%であった。そこで専門学校教員および歯科衛生士の立場で解析をまとめた。

(A) 医療テーマのうち、関心をもつ回答者が多かったものは、在宅医療・認定資格・歯周病予防・摂食嚥下・インプラントであった。高齢化社会での在宅医療介護の分野へかかわりたい意向がみえる。

(B) 専門学校の教育内容コアカリキュラムの中で、重視すべき・さらに充実させるべき科目は何かという設問については、在宅医療・コミュニケーション科目などを重視する回答が多くみられた。また、その科目にかかわる教員の教育力を充実させるべきという意見もみられた。

現在、専門教員資格は法的には歯科衛生士で、歯科衛生士法第二条の業務経験が4年以上であればよいことになっているが、3年制教員としては、学歴的にも、教育力的にも不足しているという考えが強くあった。

(C) 歯科衛生士法の定める衛生士の業務範囲についての設問では、すべての回答者が改正すべきとしている。在宅歯科医療・介護における口腔ケア業務の方向性も含めた、業務範囲の拡大が必要という意見が多いと考えている。歯科衛生士が自立して行える業務の拡充（介護医療・口腔ケア“口腔ケア専門士”の創設などのワンストップサービスのシステム等）を考える意見も多い。

(D) 学士「口腔保健学」プログラム開発については、90%以上の「興味がある」という回答が得られた。歯科衛生士の学歴向上は当人のモチベーション向上にもつながり、意識改革の第一歩となることを示している。今後、NPO 法人「口腔健康科学ネット」を通じて、全国的に実践していく価値があると考えている。そのためには、国・関連機関の助成金などが必要であろう。

(E) 自由記述アンケートでは、歯科衛生士の現状に対する各分野人の考え・問題点が見て取れるものが多く、それぞれ示唆に富んだ意見が集まった。

チーム歯科医療・歯科衛生士問題には、まず歯学部教育を改革すべきであるという意見には、現場にいた者として大いに反省する所である。

様々な問題点提起を見て思うのは、歯科業界・教育分野で50年・100年を見据えた口腔ケアを含んだ社会福祉・介護医療政策・歯科医療政策を企画してこなかったことが現状のさまざまな問題を引き起こしているのではないかということである。例えばそれは、国立大学歯学部出身の歯科医療政策に精通した国会議員が、戦後60年間1人もいないということからもうかがえる。

(F) 歯科衛生士の不足という問題と、歯科教育改革、歯科医師過剰問題は表裏一体と考えられる。50年後の少子高齢化社会のなかで、歯科医師・歯科衛生士が歯科医療チームとして何に貢献できるかを具体化する必要があると考える。たとえば、医療系を含めて、介護医療などと連携した口腔ケアのワンストップサービスなどの新規事業を実現させるために、スキルアップし専門化した介護口腔ケア専門士、（歯科衛生士）を法律的に新設することを提言したい。

②事業の成果

[カリキュラム開発]

(1) 歯科衛生士再研修スキルアッププログラム（検証講座で実施）

今日的な内容の基礎・臨床科目について、講義と演習を有機的に組み合わせた。（冊子）

(2) 模擬チーム歯科医療演習モデルプログラム（冊子）

実際の歯科医療にかかわる人材をひとつのチームとして、チェアサイドテクニック・印象採得法をチュートリアル方式で実施し、教育法の評価を行った。次のようなチームを組み、役割を与えることで効果的な教育がなされた。

歯科医師役 : 岡山大学大学院生 18 名（留学生を含む）

指導歯科衛生士役 : セミナー受講者 20 名（学生への指導を行う）

研修歯科衛生士役 : 専門学校学生 12 名

患者役 : 専門学校入学予定者 30 名（高校生）

評価者 : 大学院生および総括講師（フリーランス歯科衛生士）

(3) 学士「口腔保健学」取得プログラムの開発

独立行政法人「大学学位評価学位授与機構」の「新しい学位への道」に、歯科衛生士（専門学校 2 年制・3 年制卒）のための大学卒業資格である学位「口腔保健学」が、平成 21 年より設定された。しかし、歯科界にこの情報が行き渡っているとは言い難い。我々は、既卒歯科衛生士の学位取得のためのプログラムを NPO 法人「口腔健康科学ネット」と連携して開発し、全国の歯科医師・歯科衛生士に情報を発信した。すでに、全国から若干の希望者の申し込みがあった。

当プログラムでは、2 年制卒業者は放送大学・大学の科目等履修生等を利用して合計 124 単位を取得し、学位論文（大学卒業論文程度）を作成し、学位試験に合格することで学位、学士「口腔保健学」を取得できる。学位取得までの期間は 2 年以上（2～3 年）を予定している。各県にある放送大学を利用することで、就業しながらでも学位、学士の取得が可能である。

また、代表者が設置した NPO 法人「口腔健康科学ネット」を利用して、全国ネットで実施できるようにした。したがって、全国 10 万人以上の 2 年制卒業者が当プログラムを受講して学士取得が可能である。

③次年度以降における課題・展開

(1) 離職・育児中の在宅歯科衛生士への情報発信のために、離職歯科衛生士の情報ネットを構築する必要がある。

(2) 歯科衛生士の指導能力向上のための FD として、大学院生（歯科医師）・受講者（歯科衛生士）を教員とした学生のための模擬チーム歯科医療演習を発展させたプログラムを作成し検証する必要がある。これについて、歯学部の OSCE の必須テーマと対応させた歯科衛生士の OSCE 前臨床実習プログラムを提案することを考えている。全国的には、全国卒業者、年間 6000 人の歯科衛生士にいまだに実施されず、モデルもな

いことから、次年度に教育FDプログラムとして申請する予定である。

(3) NPO 法人「口腔健康科学ネット」から、全国の歯科衛生士へ向けて学士取得プログラムの情報を発信し、希望者を募り実践する予定である。

④成果の普及

[教材開発]

教材、歯科衛生士教員研修用ノート、基礎歯学科目・口腔病理学ノートおよび歯科インプラント・ホワイトニングの基礎・科学ノートについては、全国の各専門学校で利用できるようにした。

[アンケート調査]

歯科衛生士教育の実態調査のアンケート結果は、各歯科衛生士・各院長・各専門学校へ配布し、利用できるようにした。

授業で用いる学生教育教材・教員および学生の自習用教材として、

- ・ 歯科衛生士のための基礎と臨床の講義・実習ノート(200部)
 - ・ 歯科衛生士教員研修用ノート(300部)
 - ・ 基礎歯学科目：口腔病理学ノート(200部)
 - ・ 先端医療研修用：歯科インプラントとホワイトニングの基礎・科学ノート(200部)
- を作成し教員教育力向上に利用することとした。

さらに歯科衛生士教育の現状について、歯科医師（歯科医院院長）・歯科衛生士学校教員・就業歯科衛生士の実態調査を行い、現状およびプログラムについてアンケートを募った。歯科衛生士教育および学士取得プログラムについて積極的な回答が得られた。今後とも実態調査を NPO 法人「口腔健康科学ネット」で実施し、成果の活用については NPO 法人等とも協力体制を敷くこととなった。